

上智大学文学部

横断型人文学プログラム

履修ガイドブック 2017

文学部横断型人文学プログラム履修ガイド

プログラムの概要

文学部横断型人文学プログラムは、2015年度から新しく設けられたプログラムです。「横断型」と呼ばれるのは、主に文学部の学生が学科の枠を超えて履修できる学部共通のクラスだからです。人文学の視点をコアにして、専門の枠に縛られることなく自分の興味の幅を広げてみたいという学生のためのプログラムです。意欲をもった学生の参加を期待しています。

(プログラムの詳しい説明は、『履修要覧』の26ページを参照してください。)



1～2年次の間に「共通基礎科目」、2年～4年次で「個別選択科目」、3年次秋学期か4年次春学期に「プロジェクト・ゼミ」をとって、プログラム修了に必要なとされている単位（18単位/9科目）を全てとり終わると、大学から「プログラム修了認定証」が授与されます。

3つのコース

コースは3つあります。「身体・スポーツ文化論コース」「芸術文化論コース」「ジャパノロジー・コース」です。「共通基礎科目」をとりながら自分の興味を探り、コースをひとつに絞ります。それぞれのコースで指定されている「個別選択科目」と「プロジェクト・ゼミ」を履修します。

(各コースの詳しい説明は、『履修要覧』の26ページ2.を参照してください。)



身体・スポーツ文化論コース

大きく深呼吸をして決戦のアリーナに向かうアスリート。ライトアップされたアスリートの身体が表現する凝縮された緊張感は、アリーナ全体の高鳴る空気の振動を縛りあげ、そこに集った観客は息をのみ高揚するわれに身を任せます。いわゆるスペクテータースポーツの“醍醐味”はここに存在するのです。今年度、観るスポーツの視点から観戦行為の社会学を目論むのが「身体・スポーツ・社会Ⅱスポーツ観戦学入門」です。また、日々グローバルな発展を続けるサッカー競技と、それをめぐる言説を、当代一流の研究者が見事に料理する授業が「身体・スポーツ・社会Ⅰ一流研究者が料理するサッカー・アラカルト」。スポーツ競技としてのサッカーの特性論にとどまらず、文化としてのサッカーへの果敢なアプローチも興味深いものです。これを知らずして到底ファンとは言えず、その意味でまさにサッカーファン必見の授業といえましょう。今年度はこのほか、芸術文化論コースと共同で「舞踊文化論」も開講します。



芸術文化論コース



芸術文化は人間の知的精神的活動の多様な領域に関わるものです。「～の世界」という名前がつく科目では、特定の分野について面白さや楽しみ方を知ることから始めます。昨年度開講の「舞台芸術の世界」では、演劇・オペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・宝塚の専門家による講義の他に、東京バレエ団プリンシパルの上野水香さんと柄本弾さんをゲストに迎えトークと実演の場を設けました。知識と体験が増えたら、今度は自分が人に何かを伝える番です。今年度開講の「プロジェクト・ゼミ（舞台芸術）」では、学生が研究やパフォーマンスを発表します。そのための参考として、国際演劇祭で最優秀ミュージカル作品賞を受賞した演出家の石丸さち子さんなど、現役舞台人によるワークショップがあります。今後は「造形芸術の世界」「映像芸術の世界」とそのゼミも順に開講されます。

ジャパノロジー・コース

現在、テレビや雑誌などには、日本を手放しに称賛する言説が溢れていますが、それらに躍るステレオタイプの日本像からこぼれ落ちてしまうものにこそ、本当に豊かな魅力が隠れているのではないのでしょうか。昨年大ヒットした映画『君の名は』にも登場した四谷の鎮守・須賀神社は、八岐大蛇を退治したスサノヲを祭神としていますが、江戸時代以前には、京都祇園八坂神社の疫病の神・牛頭天王を祀っていました。スサノヲの姉である伊勢神宮のアマテラスにも、蛇の姿をしているとか、男性であったと考えられた時期があったのです。それはなぜなのでしょう。時間を遡り、空間を広げてゆくと、日本は今までとはまったく違う姿をみせてくれます。今年度は、ドイツ・フランスの視点で捉える「ヨーロッパとNIPPON」、本学唯一の民俗学の講義「多様性の日本民俗文化」などが、新しく開講されます。本コースの授業を通じて、ぜひ新しい〈日本〉を発見してください。



プログラムの履修方法

1年次～
2年次

共通基礎科目

コースを選択する前に、まず1年から2年の間に「共通基礎科目」を履修します。人文学的な視点を養うとともに、コース選択をするにあたって自分の「自分の興味のあるか」を探るための科目です。「テキストを読む」（春学期）と「文化交渉入門」（秋学期）の2科目からなります。それぞれ複数の教員が2週ずつ講義する「輪講」という形式で行われます。

（『履修要覧』の27、28ページ、およびLOYOLAのシラバスを参照してください。）

「テキストを読む」

「テキスト」というと文字で書かれたものを思い浮かべるかもしれませんが、ここで言う「テキスト」は文字だけではなく、たとえば史跡や遺物などの物、絵画、映像、身体など、おおよそ「読んで解釈できるもの」すべてを指します。それぞれの「読み方」を学ぶのがこのクラスです。

「文化交渉入門」

外来文化を受け入れたり、自国の文化を海外に発信したりする時に起こるさまざまな文化変容についての理解を深めるクラスです。たとえば文学・美術・音楽・演劇・スポーツなどが、異なる文化でどのように受けとめられ、変化してきたかを、過去と現在の事例を通して検証します。

この2科目はプログラムを修了するために全員がとらなければならない「プログラム必修科目」（各2単位）です。開講日時は金曜日の5時限目で、各150名定員の抽選科目になっています。

2年次～
4年次

個別選択科目

コースを決めたら、コース毎に決められた「個別選択科目」を履修します。主に2年次～4年次に12単位（6科目）をとります。「プログラム科目」は、各コースが独自に開講する「プログラム開講科目」と、文学部や他学部で開かれている既存の科目のうちでコースが指定する「プログラム指定科目」を指します。「自由選択科目」は、上記以外の科目で学生が自分の問題意識にあわせて履修したものを申告し、条件を満たせば、プログラム運営委員会が認定する科目です。コースの選択科目として開講されていない授業でも、自分が興味をもつテーマと強い関連があると思われる科目があれば、履修後に「文学部横断型人文学プログラム個別選択科目（自由選択科目）認定申請書」を提出し、認定を受けてください。

科目種別と履修形態（標準配当表）

科目種別	履修形態	1年次		2年次		3年次		4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通基礎科目 (4単位)	プログラム 必修	テキストを読む		2					
		文化交渉入門		2					
個別選択科目	プログラム 開講科目 (6単位)	プログラム 選択必修			選択したコースのプログラム開講科目から6単位を履修 *2				6
	プログラム 指定科目 および 自由選択科目 (6単位)*1	プログラム 選択			選択したコースの科目から履修 A群:プログラム科目 ・「プログラム開講科目」*2 ・「プログラム指定科目」 B群:自由選択科目 *3				6
プロジェクト・ゼミ (2単位)	プログラム 選択必修				プロジェクト・ゼミ (選択したコースから1科目を履修)		2		

*1. 履修可能年次については、科目によって異なり、1年次から取れるものもあります。

*2. プログラム選択必修科目を6単位以上履修した場合、その超過分をプログラム選択の科目の単位として参入できます。

*3. 自由選択科目の認定は申請によります。申請の際は別紙申請書を使用すること。様式は横断型人文学プログラムウェブサイトにもあります。(URL: <http://www.sophia-humanities.jp/ihp/index.html>)

(開講予定科目については、『履修要覧』の29～33ページを参照してください。なお、これらは現在予定されているものです。科目名、内容については変更の可能性があります。)

3年次秋学期
or
4年次春学期

プロジェクト・ゼミ

プログラム修了のために、3年次の秋学期か4年次の春学期に必ずとらなければならないのが「プロジェクト・ゼミ」(選択必修科目/2単位)です。ゼミは、コース毎に設けられる15名程度の少人数のクラスで、参加学生の興味にあわせて作りあげていくものです。ゼミの研究テーマは、教員が提示する場合と学生が提案する場合があります。ひとつのテーマについて複数の学科の学生が協力してリサーチ、分析、場合によってはフィールドワークを行うこともできます。そして、最終的にプレゼンテーションへつなげていきます。研究成果の発表会も行う予定です。少人数のゼミにするため、以下のような履修資格条件があります。

- ① 3年次以上であること
- ② 2年次末までに「共通基礎科目」(4単位)を修得済みであること
- ③ 2年次末のGPA(全履修科目の成績の平均)が2.5以上であること
- ④ 書類審査を通っていること

①～③の条件を満たし、ゼミ履修を希望する学生は、3年次の7月に、成績表および履修希望動機、履修計画等を記載した書類をプログラム運営委員会に提出し、委員会によって審査・選考されます。書類提出要領は、毎年履修要覧に記載されますので注意してください。

(「プロジェクト・ゼミ」については、『履修要覧』の28ページを参照してください。)

プロジェクト・ゼミの履修方法

プロジェクト・ゼミを希望し、要件を満たしている学生は、以下の手続きを行ってください。

春学期中（遅くとも6月中まで）に、①プロジェクト・ゼミ申請要項、②3年次秋学期・4年次春学期のプロジェクト・ゼミ概要、③「プロジェクト・ゼミ履修申請用紙」（以下「申請用紙」）が、文学部 HP 上に公開されます。ここからダウンロードした申請用紙に必要な事項を記入のうえ、必要書類を添えて、7月14日（金）までに、文学部長室に提出してください。

【申請用紙に書く事項】

- 1) 氏名、学部学科・学籍番号、連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）
- 2) 希望コース、希望するゼミ（優先順位2位まで）
- 3) 希望理由（200字程度）
- 4) 研究したい自分のテーマとその内容（400字程度）
- 5) プログラムの「履修済み」・「履修中」・「履修予定」の科目名

【添付書類】

- 1) 成績表（2年次末時点のもの）
- 2) 個別選択科目（自由選択科目）認定申請書（希望する科目がある場合）
- 3) 自由選択科目として認定を希望する科目のシラバス（希望する科目がある場合）

プロジェクト・ゼミ受講者は、プログラム運営委員会で選考し、その結果は8月上旬に LOYOLA 上で本人に通知します（やむを得ない事情で変更の生じた場合は、9月上旬までに最終結果を追加で通知する場合があります）。選考に通った学生のみがゼミを履修できますので、該当する学生は、履修登録期間に、LOYOLA で各自忘れずに登録してください。

* 留学中の学生へ

申請用紙の提出は受け付けますので、申請用紙を7月14日までにメール添付ファイルで、このガイドブック末尾にある「履修相談窓口」のアドレスに送ってください。その際、成績表を提出できる時期を申請用紙の備考欄に記し、帰国後すぐに文学部長室に追加提出してください。

* 留学・休学・編入・転部科など特別の事情がある学生は個別に対応しますので、申請用紙の備考欄にその旨を書いてください。

* わからないことがあれば、「履修相談窓口」にお問い合わせください。



Q & A

Q 1. プログラムを途中でやめたり、プロジェクト・ゼミの選考に落ちたりした場合、取得した単位は無駄になってしまうのでしょうか？

A. いいえ、プログラムのために履修した科目の単位は、以下のように卒業に必要な単位に充当することができます。ただし、「プロジェクト・ゼミ」（2単位）は、卒業に必要な単位に充当することができません。

（1）「共通基礎科目」及び「プログラム開講科目」は、他学部・他学科科目を履修し取得した単位と合わせ、各学科で認められている範囲で卒業に必要な単位に充当することができます。

（2）「プログラム指定科目」および「自由選択科目」は、自学科で開講されている科目については自学科選択科目の単位として、「全学共通科目」として開講されているものは全学共通科目の単位として、他学部・他学科の科目は、上記（1）と同様に、卒業に必要な単位に充当することができます。

Q 2. 「プログラム指定科目」の中に全学共通科目が入っていますが、これも卒業単位に含まれるのでしょうか？

A. 含まれます。ただし、この場合は、各学科で定められている「他学部他学科科目の自学科選択科目の卒業単位として充当される科目」としての扱いにはならず全学共通科目の単位として計算されます。

Q 3. 1年次に「共通基礎科目」の抽選登録から外れ、2年次に再び履修を希望し登録したものの、再度、抽選から外れてしまった場合はどうしたらよいのでしょうか？

A. 1年次に抽選から外れた2年次については、優先的に登録できる設定をしていますが、それでも抽選から外れたことが分かったら、履修登録期間内に、速やかに科目担当教員に相談してください。

なお、抽選科目は各自の履修計画に従って慎重に登録してください。（抽選科目に関する注意は、『履修要覧』の「抽選科目について」を参照してください。）

Q 4. 「プログラム必修」「プログラム選択必修」「プログラム選択」と通常の「必修」「選択必修」「選択」の区分とはどう違うのでしょうか？

A. 「プログラム」という言葉がついているのは、プログラムを修了するために、必ず履修しなければならない科目と選択できる科目を区別するためで、成績表での科目区分とは異なります。たとえば、Q 1にあるように、「共通基礎科目」は「プログラム必修科目」ですが、成績表では「選択科目」となり、他学部・他学科の科目を履修した場合と同様の扱いになります。また、「プログラム選択」科目として指定されている科目が、自学科で「選択科目」として開講されているものあれば、成績表では「自学科選択科目」となります。「全学共通科目」については、Q 2のとおりです。

*なお、強い履修意志があるにもかかわらず抽選に外れた等の理由で履修ができない状況にある場合は、履修登録期間内に、プログラム事務室（文学部長室）まで相談してください。

各種問い合わせ先

●文学部長室（7号館10階1011室）

月～金 9：00～17：00（除く 11：30～12：30）

●履修相談窓口（7号館8階0820室）

時間帯 応相談：sophia.fhu.pd@gmail.com

（メールでアポイントを取ってください）

横断型人文学プログラムウェブサイト

<http://www.sophia-humanities.jp/ihp/index.html>